

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2022.12.12-18 2022

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

2:12 私は振り返って、知恵と狂気と愚かさを見た。そもそも、王の跡を継ぐ者も、すでになされたことをするにすぎない。

2:13 私は見た。光が闇にまさっているように、知恵は愚かさにもまさっていることを。

2:14 知恵のある者は頭に目があるが、愚かな者は闇の中を歩く。しかし私は、すべての者が同じ結末に行き着くことを知った。

2:15 私は心の中で言った。「私も愚かな者と同じ結末に行き着くのなら、なぜ、私は並外れて知恵ある者であったのか。」私は心の中で言った。「これもまた空しい」と。

2:16 事実、知恵のある者も愚かな者も、いつまでも記憶されることはない。日がたつと、一切は忘れられてしまう。なぜ、知恵のある者は愚かな者とともに死ぬのか。

2:17 私は生きていることを憎んだ。日の下で行われるわがは、私にとってはわがわいだからだ。確かに、すべては空しく、風を追うようなものだ。

2:18 私は、日の下で骨折った一切の労苦を憎んだ。跡を継ぐ者のために、それを残さなければならぬからである。

2:19 その者が知恵のある者か愚か者か、だれが知るだろうか。しかも、私が日の下で骨折り、知恵を使って行ったすべての労苦を、その者が支配するようになるのだ。これもまた空しい。

2:20 私は、日の下で骨折った一切の労苦を見回して、絶望した。

2:21 なぜなら、どんなに人が知恵と知識と才能をもって労苦しても、何の労苦もしなかった者に、自分が受けた分を譲らなければなら

ないからだ。これもまた空しく、大いに悲しきことだ。

2:22 実に、日の下で骨折った一切の労苦と思い煩いは、人にとって何なのだろう。

2:23 その一生の間、その営みには悲痛と苛立ちがあり、その心は夜も休まらない。これもまた空しい。

2:24 人には、食べたり飲んだりして、自分の労苦に満足を見出すことよりほかに、何も良いことがない。そのようにすることもまた、神の御手によることであると分かった。

2:25 実に、神から離れて、だれが食べ、だれが楽しむことができるだろうか。

2:26 なぜなら神は、ご自分が良しとする人には知恵と知識と喜びを与え、罪人には、神が良しとする人に渡すために、集めて蓄える仕事を与えられるからだ。これもまた空しく、風を追うようなものだ。

「愚かな者と同じ結末に行き着くのなら、それでは私の知恵は何の益になろうか。」というのは、神を認めない人々が陥りやすい詭弁です。どうせ死んでなくなるなら、楽しくおかしく生きればよいという人も少なからずいますが、それはサタンの罠です。人に生きる望みや、生きる意味や、命の尊さまで感じなくさせるものなのです。著者は、労苦に意味を見出せなくなり、「絶望した。」とまで言っています。神の存在を認めることがサタンの「絶望」から抜け出す一歩です。

誰もが学生時代は学び、またその後はと労苦して人生を過ごしますが、自分が学ぶ知恵と労苦に「絶望」しては、本当の喜びの人生を送れるはずがありません。これもまた神がいなければ…という前提に立っているための絶望です。すべての根源でありまた解決である神を、存在するのに存在しないという虚偽の上に作り上げた人生観は、当

然絶望に至るのです。

主である神様の存在をいつも思いながら生きましょう。そして決断し、前進しましょう。主の存在を知っていることに感謝しましょう。決して絶望することのない人生を、神様から与えられていることに感謝しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 13日 火曜

伝道者の書



3:1 すべてのことには定まった時期があり、天の下のすべての営みに時がある。

3:2 生まれるのに時があり、死ぬのに時がある。植えるのに時があり、植えた物を抜くのに時がある。

3:3 殺すのに時があり、癒やすのに時がある。崩すのに時があり、建てるのに時がある。

3:4 泣くのに時があり、笑うのに時がある。嘆くのに時があり、踊るのに時がある。

3:5 石を投げ捨てるのに時があり、石を集めるのに時がある。抱擁するのに時があり、抱擁をやめるのに時がある。

3:6 求めるのに時があり、あきらめるのに時がある。保つのに時があり、投げ捨てるのに時がある。

3:7 裂くのに時があり、縫うのに時がある。黙っているのに時があり、話すのに時がある。

3:8 愛するのに時があり、憎むのに時がある。戦いの時があり、平和の時がある。

3:9 働く者は労苦して何の益を得るだろうか。

3:10 私は、神が人の子らに従事するようにと与えられた仕事を見た。

3:11 神のなさることは、すべて時にかなって美しい。神はまた、人の心に永遠を与えられた。しかし人は、神が行うみわざの始まりから終わりまでを見極めることができない。

3:12 私は知った。人は生きている間に喜び楽しむほか、何も良いことがないのを。

3:13 また、人がみな食べたり飲んだりして、すべての労苦の中に幸せを見出すことも、神の賜物であることを。

3:14 私は、神がなさることはすべて、永遠に変わらないことを知った。それに何かをつけ

加えることも、それから何かを取り去ることもできない。人が神の御前で恐れるようになるため、神はそのようにされたのだ。

3:15 今あることは、すでにあったこと。これからあることも、すでにあったこと。追いかめられてきたことを神はなお求められる。

人々が神様の存在を認められない要因としては、その存在があまりにも偉大なので、人間の五感では感知できないところにあるでしょう。そしてまた神の法則性も人間にはわかりづらいものです。しかし、著者は「何事にも定まった時期が」と述べて、神の働かれる時のみわざを暗示しています。人は先の未来を予見することはできませんから、何をするにも暗中模索の状態ですが、神様は全てを予見した導かれる方なので、「定まった時期」とは、神様の最善のタイミングです。

確かに「働く者は労苦して何の益を得よう」と言いたくなるほど、むなしく先が見えない人生ですが、しかし神が存在しておられます。その神様が私たちに「労苦させる」のです。必ず「時にかなって美しい」みわざで、美しい人生にしてくださいのです。

ただし「人は、神が行われるみわざを、初めから終わりまで見きわめることができない」ので、神への信仰が問われるのです。「見きわめられない」からといって、神を認めなければ「むなし」人生に「絶望」しなければなりません。一方神を認めて信頼するなら、「時にかなつた」美しいみわざを体験できるので。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



14日 水曜

伝道者の書



- 3:16 私はさらに日の下で、さばきの場に不正があり、正義の場に不正があるのを見た。
- 3:17 私は心の中で言った。「神は正しい人も悪しき人もさばく。そこでは、すべての営みとすべてのわざに、時があるからだ。」
- 3:18 私は心の中で人の子らについて言った。「神は彼らを試みて、自分たちが獣にすぎないことを、彼らが気づくようにされたのだ。」
- 3:19 なぜなら、人の子の結末と獣の結末は同じ結末だからだ。これも死ねば、あれも死に、両方とも同じ息を持つ。それでは、人は獣にまさっているのか。まさってははいない。すべては空しいからだ。
- 3:20 すべては同じ所に行く。すべてのものは土のちりから出て、すべてのものは土のちりに帰る。
- 3:21 だれが知っているだろうか。人の子らの霊は上に昇り、獣の霊は地の下に降りて行くのを。
- 3:22 私は見た。人が自分のわざを楽しむことにまさる幸いはないことを。それが人の受ける分であるからだ。だれが、これから後に起こることを人に見せてくれるだろうか。

この世のさばきは不正もつきもので、正義と言われるものでさえ、完全に信頼できるものではないのだと著者は言います。スポーツなどでも、不正なジャッジで努力がだいなしになるという悲劇が生まれることがあります。それが人生であるなら、なんとむなしなことかというのです。

その究極が死です。どんなに良いことをしても、人の役に立っても、忍耐の限りを尽くしても、結局獣のような悪者と同じく死という結末であるなら、それは全く不正なことであり、むなしなことである

と著者は言うのです。

もちろん以上のことは、もしも神が存在していなかったなら…という前提の話です。実際には神様は存在し、その人の人生に報いてくださいます。また不正なさばきに苦しむ人には、助けを与えてくだり回復を与えてくださいます。何よりも不正にでさえ神の遠大なご計画があり、すべてを益に変えてくださるのです。

そのような主のおられることに感謝しましょう。不正や不公平の中に悩んでいるなら、その中にも遠大なご計画で導かれる主を信頼しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



4:1 私は再び、日の下で行われる一切の虐げを見た。見よ、虐げられている者たちの涙を。しかし、彼らには慰める者がいない。彼らを虐げる者たちが権力をふるう。しかし、彼らには慰める者がいない。

4:2 いのちがあって、生きながらえている人よりは、すでに死んだ死人に、私は祝いを申し上げる。

4:3 また、この両者よりもっと良いのは、今までに存在しなかった者、日の下で行われる悪いわざを見なかった者だ。

4:4 私はまた、あらゆる労苦とあらゆる仕事の成功を見た。それは人間同士のねたみにすぎない。これもまた空しく、風を追うようなものだ。

4:5 愚かな者は腕組みをし、自分の身を食いつぶす。

4:6 片手に安らかさを満たすことは、両手に労苦を満たして風を追うのにまさる。

4:7 私は再び、日の下で空しいことを見た。

4:8 ひとりぼっちで、仲間もなく、子も兄弟もいない人がいる。それでも彼の一切の労苦には終わりがなく、その目は富を求めて飽くことがない。そして「私はだれのために労苦し、楽しみもなく自分を犠牲にしているのか」とも言わない。これもまた空しく、辛い営みだ。

4:9 二人は一人よりもまさっている。二人の労苦には、良い報いがあるからだ。

4:10 どちらかが倒れるときには、一人がその仲間を起こす。倒れても起こしてくれる者のいないひとりぼっちの人はかわいそうだ。

4:11 また、二人が一緒に寝ると温くなる。

一人ではどうして温くなるだろうか。

4:12 一人なら打ち負かされても、二人なら立ち向かえる。三つ燃りの糸は簡単には切れない。

4:13 貧しくても知恵のある若者は、忠告を受け入れなくなった年老いた愚かな王にまさる。

4:14 そのような若者は、牢獄から出て王になる。たとえ、その王国で貧しく生まれた者であっても。

4:15 私は見た。日の下を歩む生きている者がみな、王に代わって立つ、後継の若者の側につくのを。

4:16 その民すべてには終わりが無い。彼を先にして続く人々には。後に来るその者たちも、後継の者を喜ばない。これもまた空しく、風を追うようなものだ。

神がいなければ、この世の中では見える現実だけが全てで、良い悪いの価値はありません。ですからもしも自分がしいたげられていたら、そこには後の希望を約束するものもなく、またその涙にも意味がありません。そして実際この世の中には多くの涙があり、悩みがあるのですから、それらには意味もな希望もなく、私たちはただ虚しく苦しむしかないのです。

ですから著者(伝道者)は、「死人に、祝いを申し上げ」、「存在しなかった者」に「もっと良い」と言うのです。

このように著者(伝道者)は、神なしとする者の側に立ってその前提で人生論を展開しますが、それはそのような前提がいかにむなししいものであるかを、悟らせるためです。そしてまた神なしとは言いつけられない、この世の決してむなしくはない事象に目を留めるようにするのです。

ふたりがまさっていること。三つ燃りの糸のように一致協力することのすばらしさ。知恵のある

指導者のすばらしさ。これらは、やはりこの世には何らかの価値や法則があることを暗示しています。

神様がおられるゆえに、この世にはすばらしい価値があること、また価値ある生き方があることを確信しましょう。またこの伝道者のように、未信者の気持ちにも寄り添って、聖霊の知恵によって宣教しましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 16日 金曜

伝道者の書



5:1 神の宮へ行くときは、自分の足に気を付けよ。近くに行って聞くことは、愚かな者たちがいけにえを献げるのにまさる。彼らは自分たちが悪を行っていることを知らないからだ。

5:2 神の前では、軽々しく心焦ってことばを出すな。神は天におられ、あなたは地にいるからだ。だから、ことばを少なくせよ。

5:3 仕事が多ければ夢を見、ことばが多ければ愚かな者の声となる。

5:4 神に誓願を立てるときには、それを果たすのを遅らせてはならない。愚かな者は喜ばれない。誓ったことは果たせ。

5:5 誓って果たさないよりは、誓わないほうがよい。

5:6 あなたの口が、あなた自身を罪に陥らせないようにせよ。使者の前で「あれは過失だ」と言ってはならない。神が、あなたの言うことを聞いて怒り、あなたの手のわざを滅ぼしてもよいだろうか。

5:7 夢が多く、ことばの多いところには空しさがある。ただ、神を恐れよ。

5:8 ある州で、貧しい者が虐げられ、権利と正義が踏みにじられているのを見ても、そのことに驚いてはならない。その上役には、それを見張るもう一人の上役がいて、彼らよりももっと身分が高い者たちもいるからだ。

5:9 国にとっての何にもまさる利益は、農地が耕されるようにする王がいることである。

著者（伝道者）は信じない者に対して、3つの視点から論じて、神の存在を論証しようとしています。その視点とは、神はないという視点、神は存在する

という視点、そして両者の中間のような神を暗示するものがあるという視点です。端的に言うと、無神論、有神論、そして自然神学的神論です。

（自然神学的神論とはローマ書1:20にあるように被造物から神の存在を認めるというものです。）

ここまで無神論と自然神学的神論を論じてきた伝道者は、ここで「神の宮に行くときは」と、突然のようにして有神論を展開します。突然のようですが、私たち人間が神と出会うときは、人間の経験や常識を超えるのですから、多くは突然です。私たちが伝道するときも、流れの中で違和感がないようにとばかり考えていたら、いつまでたっても福音は語れないものです。伝道は神様の聖霊にたよって、突然のようになることも考慮しておきましょう。

「神に誓願を立てるとき」というように、人場もともと持っている創造主への思いを、ここでは呼び起こすことが期待されています。その上で、神が造った世界に生きる倫理を語ります。すなわち誓いや言い訳についてです。

このように、人は神を信じるときの前後には、人間の視点に立ったり、神の視点に立ったりしながら、最後には神様を受け入れるのです。

私たちは自分自身が神の前に出るときや誓いのときの誠実さを表しましょう。そして神様を知らない人々に、創造主の倫理に気づかせつつ、伝道しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



17日 土曜

伝道者の書



5:10 金銭を愛する者は金銭に満足しない。富を愛する者は収益に満足しない。これもまた空しい。

5:11 財産が増えると、寄食者も増える。持ち主にとって何の成功だろう。それを目で眺めているだけだ。

5:12 働く者は少し食べても多く食べても、心地よく眠る。富む者は満腹しても、安眠を妨げられる。

5:13 私は日の下に、痛ましいわざわいがあるのを見た。所有者に守られていた富が、その所有者自身に害を加えることだ。

5:14 その富は不運な出来事で失われ、息子が生まれても、その者の手もとには何も無い。

5:15 母の胎から出て来たときのように、裸で、来たときの姿で戻って行く。自分の労苦によって得る、自分の自由にするのできるものを、何一つ持って行くことはない。

5:16 これも痛ましいわざわいだ。出て来たときと全く同じように去って行く。風のために労苦して何の益になるだろうか。

5:17 しかも、人は一生、闇の中で食事をする。多くの苛立ち、病氣、そして激しい怒り。

5:18 見よ。私が良いと見たこと、好ましいこととは、こうだ。神がその人に与えたいのちの数日間、日の下で骨折るすべての労苦にあって、良き物を楽しみ、食べたり飲んだりすることだ。これが人の受ける分なのだ。

5:19 実に神は、すべての人間に富と財を与えてこれを楽しむことを許し、各自が受ける分を受けて自分の労苦を喜ぶようにされた。これこそが神の賜物である。

5:20 こういう人は、自分の生涯のことをあれ

これ思い返さない。神が彼の心を喜びで満たされるからだ。

多くの人々はお金を人生の目的や楽しみにしますが、それもむなしなこと。なぜなら金銭は、増えれば増えるほど、もっと欲しくなるからです。または富むものは、それを減らさないように、また守るようにと腐心して、「安眠を妨げられる」からです。ですから富を加えることは「痛ましいこと」であると、伝道者は言っています。

またこの世で富を増し加えても、結局は「裸でもとの所」すなわち天に帰るのであるから、「風のために労苦」するようなものであり、益がないのです。

これが神がない場合の人生です。私たちもまた、神様を計算に入れなければ、または神様のみこころを目的に入れなければ、「風のために労苦する」ことになってしまいます。そうならないように、主がおられると知っている者の生き方をしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



- 6:1 私が日の下で見た悪しきことがある。それは人の上に重くのしかかる。
- 6:2 神が富と財と誉れを与え、望むもので何一つ欠けることがない人がいる。しかし神は、この人がそれを楽しむことを許さず、見ず知らずの人がそれを楽しむようにされる。これは空しいこと、それは悪しき病だ。
- 6:3 もし人が百人の子どもを持ち、多くの年月を生き、彼の年が多くなっても、彼が良き物に満足することなく、墓にも葬られなかったなら、私は言う。彼よりも死産の子のほうがまだと。
- 6:4 その子は空しさの中に生まれて来て、闇の中に去って行き、その名は闇におおわれ、
- 6:5 日の光も見ず、何も知らない。しかし、この子のほうが彼よりは安らかだ。
- 6:6 彼が千年の倍も生きても、幸せな目にあわなければ。両者とも同じ所に行くではないか。
- 6:7 人の労苦はみな、自分の口のためである。しかし、その食欲は決して満たされない。
- 6:8 知恵のある者は、愚かな者より何がまさっているだろう。人の前でどう生きるかを知っている貧しい人も、何がまさっているだろうか。
- 6:9 目が見ることは、欲望のひとり歩きにまさる。これもまた空しく、風を追うようなものだ。
- 6:10 存在するようになったものは、すでにその名がつけられ、それが人間であることも知られている。その人は、自分より力のある者と言い争うことはできない。
- 6:11 多く語れば、それだけ空しさを増す。そ

れは、人にとって何の益になるだろうか。
6:12 だれが知るだろうか。影のように過ぐす、空しい人生において、何が人のために良いことなのかを。だれが人に告げることができるだろうか。その人の後に、日の下で何が起こるかを。

神がないなら、また神を人生の基礎に据えないなら、すべてはむなししいということを経験者は語り続けます。「富と財宝もそうですし、「百人の子ども」、「多くの年月を生きる」ことも同じです。

また人はどんなに希望がかなっても、「その（食）欲は満たされない」のですから、いつまでも満ち足りた幸福を味わうことはないのです。

もちろん、人間はそこまで神なしの人生観を追求することはできません。むなしさの中で絶望するしかないのです、それ以上は考えないようにしましょう。または何か生きがいを見つけるでしょう。しかし、それらは根拠がないので、苦しみや事故など想定外の出来事で、そして死を前にして崩れてしまいます。

そこで伝道者は人々が薄々気づいている神という存在を指し示します。「だれが人に告げることができようか。」と、神の存在に思いが向くように導いているのです。クリスチャンである私たちも、人生の希望は願い、また計画を追求する前に神様のみこころと目的をしっかりとさせることが必要です。そうでないと、その努力が「やみの中に消される」ことになってしまいます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

